

# 日本山岳会 越後支部報

## 第 39 号

令和6年2月15日  
発行 公益社団法人日本山岳会越後支部  
発行者 後藤 正弘  
新潟県上越市新光町2丁目1-40  
TEL・FAX 025-512-7561  
広報委員長 諏訪 恵一

### 伝統の「高頭祭」を、越後から世界へ!!

「アジア山岳連盟創立30周年記念事業・国際山岳平和祭2024」

支部長 後藤 正弘



### 私の一枚

昨年ほどにかく暑かった。外出は控えようと真夏の登山は我慢した。しかし我慢しきれず8月末に行った守門岳で、2リットルの水が底をつき、脱水症状になった。我慢すればよかった。写真は猛暑もおさまった9月23日、南魚沼市清水集落を出発し清水峠に向かう途中のブナ林。十分水分補給をし峠を指して、さあ出発だ。

撮影者 小野寺 昭彦

本山岳・スポーツクライミング協会（略称・JMSCA）丸会長より高頭祭（たいまつ登山祭）への参加が説明されたとのことである。

12月5日にJMSCA丸会長から日本山岳会（略称・JAC）橋本会長に協力依頼があり、12月14日のJAC理事会で審議し承認された。JMSCAでは、10月12日理事会で、アジア山岳連盟創立30周年記念事業の実行委員会が結成され、本格的な準備が開始されている。

新型コロナウイルスの世界的流行が沈静化した、ロシアのウクライナ侵攻、昨年10月のイスラエルとパレスチナの戦争勃発と世界で紛争が絶えない。

また、地球温暖化などの気候変動、大量絶滅による生物多様性の喪失、人工物質の増大などは、人類の活動が原因とされている。

こんな時代だからこそ、登山という共通の目的をもった様々な国の登山者が集い、自然に親しみ、楽しみを共有し、交流・平和の尊さを願うことは意義のあることだと思っている。皆様のご協力とご支援を切にお願いいたします。

新しい年がスタートした。

越後支部の伝統行事「第67回高頭祭」が、「アジア山岳連盟創立30周年記念事業・国際山岳平和祭2024」のメイン行事となり、国際平和・交流に貢献できることになった。

もちろん、第69回新潟県登山祭と一体となった第69回弥彦山たいまつ登山祭を含めたものになる。主催者である弥彦燈籠まつり協賛会・新潟県山岳協会・弥彦山岳会・日本山岳会越後支部が互いに協力しながら、越後の伝統山岳行事を飛躍させて、日本文化を代表するフェスティバルとして、世界に向けて発信したいと思っている。

日本山岳会創設の最大功労者「高頭仁兵衛翁」を顕彰する「高頭祭」、そして県下の登山者が一同に集う「新潟県登山祭」、弥彦山の雨乞い神事から始まる「たいまつ登山祭」が一つ

となつてクライマックスを迎える。

夕闇の中に、幻想的なたいまつの火がチラチラと静かに御山を下りてくる。そして彌彦神社で一同参拝、鼓笛隊の高らかな音に導かれながら彌彦神社の参道を行進していく。大空に火花が舞い、沿道にあふれる観客が拍手で「御神火」を迎え、千年の昔から伝わる燈籠神事「弥彦燈籠まつり」（重要無形民俗文化財）が始まるのである。

さて、アジア山岳連盟（略称JAAA）だが、中国・台湾・韓国・中国香港・インド・イラン・カザフスタン・キルギスタン・モンゴル・ネパール・パキスタン・バングラデシュ・日本の14ヶ国（地域）・18団体で構成されている。これまでの経過は、2022年11月インド総会で日本開催が承認され、2023年11月初旬ネパール・カトマンズ総会において、公益社団法人日

# 地域の山若樺山(若ブナ山) 0206・09

渡邊 忠次

新潟市から日本海東北自動車道を荒川胎内I・Cで降り、国道113号線を荒川沿いに東進し関川村に向かうと、車窓から大島付近左手に端正なピラミッド形の光鬼山、右手には飯豊連峰北端の杖差岳、正面には三角形の若樺山が見えてきます。

若樺山の山名は関川村発行の山岳観光ガイドブックに載ってはいませんが登山コースの案内表記はありません。残雪期はもちろん道なき道を歩けますが無雪期でも杣道がありナタメを辿って山頂まで登って行かれます。村ではハイキングコースとして整備していないことから登山道を載せないのだと思われまふ。

鷹巣温泉脇を通過し片貝トンネルを抜けて国道を右折すると沼集落に入ります。スキー場の案内看板が各所に見られます。旧わかぶな高原スキー場(旧わかぶな放牧場)管理のために整備された舗装道路を上り、上部に行くにつれて砂利道となりますがその終点が若樺山の登山口です。そこから目の大きな電波中継用



鉄塔脇に山頂までの道を見つけることができます。この道は猟師が自分たちのクマ狩猟のために整備したと伝え聞いています。道脇にはイワカガミやイワウチワなどの山野草が散見されます。山頂は背丈以上の灌木がありますが、要所で見晴らしができるように刈りはられています。積雪期は360度の展望で、南側は直下に米沢街道の大里峠(大蛇伝説で有名)を挟んで飯豊連峰杖差岳の景観、北は荒川の先に光鬼山、その奥に朝日連峰が遠望できます。特筆すべきは眼下に萱ノ峠があることです。約500年前に米沢街道の大里峠が開削される以前からの古道です。数年前踏査した処、大半が倒木や藪に覆われていましたが、往時の面影がハッキリ残っている処もあり歴史の重みを感じた瞬間でした。(地元民によると山仕事などで昭和年代でも利用されたりしい。)

若樺山の歴史的文獻資料は少ないのですが、磐梯朝日国立公園内(昭和25年(1950年)指定)であることから、わかぶな高原スキー場開設に当たっては自然環境アセスメントの詳細な調査報告書が国に提出されていると思います。三等三角点で標高629.9m、三角点名「若船」(高橋眞雄・関川村山の会会員調査)。地元の人々からいしか知らなかったこの山に昭和62年(1987年)12月「わかぶな高原スキー場」がオープンしてから一気に知名度が上がりました。多彩なスロープと立派な施設設備を備えたファミリースキー場として人気を博しましたが、スキー人口の減少や暖冬小雪の影響を受け令和2年(2020年)1月で33年間の歴史に幕を閉じました。また山麓では昭和56年(1981年)6月から

沼放牧場として解放され、スキー場開設後も併用しながら村内外の畜産振興に貢献してきましたが、畜産業の衰退とともにその役目を終えています。蛇足になりますが、登山の注意事項として山麓の大半は共有地や私有地であることから、特に山菜シーズンにおいては地元民とのトラブルを避けて友好に気を配ることが大切です。どこの山行でも同様と思えます。

## 越後支部年次晩餐会の開催

事務局長 玉木 大二朗

12月9日(土)新潟市内、新潟東映ホテルにおいて今年度の支部晩餐会を開催した。懇親会の前に本部山岳古道プロジェクトリーダー・近藤雅幸氏を講師に招き「山岳古道の魅力と楽しみ」と題して講演会を開催した。プロジェクトを活用しての山岳古道調査の状況や各支部の取り組み状況を拝聴した。近藤講師からは「越後支部の取り組みは調査活動、調査結果のまとめも丁寧で優等生である」とお褒めをいただき、支部の古道調査プロジェクトチームの努力が報われたものと受け止めた。一方、全国の支部の中には支部員が高齢であることを理由に調査活動を拒否している支部があることを知り驚嘆した。講演会終了後は講師を交えて集合写真の撮影を行った。

晩餐会はコロナ禍により4年ぶりの開催となったが、県外からの会員や会友からも出席していただき懇親会の参加者は39名であった。支部長挨拶、物故会員への黙とう、新永年会員及び新支部名誉会員の紹介、乾杯、懇談、来賓メッセージ紹介と進

行し、最後に閉会挨拶及び万歳三唱で締めくくった。今年度の参加者はこれまでになく少なかつたが、その分参加者同士の交流を熱く深められたものと感じられた。一方、会員の入会者の拡大と減少防止が喫緊の課題ではあるが、次年度以降の支部晩餐会の参加者減少が危惧される所であり、晩餐会の在り方や工夫が求められるのではないかと新たな課題を感じた。来年度の晩餐会には多くの皆様からのご参加とご意見を賜りたく存じ上げます。

## 日本山岳会年次晩餐会の出席

事務局長 玉木 大二朗

12月2日(土)、都内新宿の京王プラザホテルにおいて令和5年度の日本山岳会年次晩餐会が開催され、越後支部からは支部長以下8名が出席した。晩餐会に先立ち、「写真で振り返る日本人のエベレスト」のパネル展示とアルパインスケッチクラブ主催の絵画展の催しがあった。絵画展では越後支



部の中川久会員の絵画が展示されていた。また、図書交換会が開催され越後支部会員の出品や購入希望が入札されていた。講演会は「テイリチ・ミール北壁初登攀」、「グレート・ヒマラヤ・トラバース報告」、秩父宮記念山岳賞受賞記念講演「北アルプスの形成」が行われた。支部長と私は桐生副会長の仲介で橋本会長や長島常務理事等との事務連絡のため、いずれの講演会にも参加できなかった。

晩餐会は全国から335名が出席し、44のテーブルに分散配置されて開催された。私は支部長がテーブルマスターを務める「飯豊山」のテーブルに配置され、越後支部会員のほかに越後支部の岡田陽子会友、青森支部の方々と同席になった。晩餐会は会長挨拶に始まり、物故会員への黙とう、新永年会員顕彰、新入会員紹介、秩父宮記念山岳賞表彰と受賞者挨拶、鏡開きの行事が行われ、注目をひいたのは新入会員紹介で中学1年生の男子生徒が学生服でステージに上がったことだった。新入会員を



橋本しをり会長挨拶

代表してこの中学生が「アルパインやビッグウォールを登りたい」との入会同機を交えて自己紹介をした。ご自身の祖父母以上の年代と思われる多くの会員を前に、実に堂々と話をする姿は頼もしく、このような若い世代が当支部にも入ってこないかなとすらやましくもあった。その後、乾杯、歓談となり宴も中盤になるころには越後支部にゆかりのある方々が我々のテーブルを訪ねご挨拶をされるなど、終始和やかに進み、最後は各支部の紹介がされると、多くの拍手で称えられ閉宴となった。

初めて本部の晩餐会に出席したが、最初は参加者の多さと会場の豪華さの雰囲気にもまれ、ざいごモン特有の緊張感があった。しかし、同じ山を愛する人同士の集まりで、初対面の方とも共通の話題で盛り上がり、旧知の面識のある方とも会うことができ、参加してよかったとの感想を抱き、その日のうちに新潟に戻った。

### 「第36回全国支部懇談会」報告

桑原 一雄

全国支部懇談会は、群馬支部の主催により、2023年9月23日(土)～24日(日)の2日間にわたり24支部から156名が参加して実施された。

越後支部からは桐生恒治顧問(本部副会長)、後藤正弘支部長、王木大二朗事務局長、佐藤レイ子さん、吉田理一さんと私の6名が参加した。

1日目(9月23日(土))

会場 ホテル「坐山みなかみ(水上館)」  
講演 「今、谷川岳で考える安全登山」  
群馬県警察谷川岳警備隊長 伊藤武氏

プロジェクトにより事例を交えて紹介し、山岳遭難の傾向を解説していただいた。たまたま、数メートルだけの残雪部分においてアイゼン未着用で滝に落ちるといいう事があった。

また、バックカントリーでの滑落で、アゴが割れたため、エマージェンシーコール(緊急通報)が無言電話にならざるを得なかったことから、無言電話にもなんらかの意味がある可能性があるとのこと。

一昨年春の、天狗の泊り場で警視庁警察官男女2人組の滑落事故については言及がなかった。

救助法の訓練の一例は、ロープワーク、搬送法、ウィンチ使用のホイスト等がある。現在、山岳遭難対策用ドローンの購入費用をクラウドファンディングで調達を計画しているとのこと。

質疑応答では、会員から活発に質問が出され、安全登山への関心の高さを示していた。  
・懇親会



大座敷に大人数の会員が参集した雰囲気は久しぶりに壮観と言えるものであった。アトラクションの三国太鼓の勇壮な袍の鼓動に全員聞き入り、懇親会の開幕を告げるものであった。

主催の根井康雄群馬支部長の歓迎の言葉に始まり、橋本しをり会長の挨拶、阿部賢一みなかみ町長のご祝辞、桐生恒治副会長の乾杯と続き、酒宴となり大いに盛り上がる。

膳には山海の珍味などごつつおがごぎ並べられ、諸国の名酒も振るまわれ、宴会場に会員が入り乱れる壮観な図となる。

ここ数年の黙食傾向から一転、心の開放の様は日本山岳会の活性を象徴している。次年度開催の神奈川支部にエールを送り、盛会のうちに夜は更けた。

2日目(9月24日(日))

・ハイキング

8時に宿をチェックアウトし、バスで谷川岳インフォメーションセンターに集合す



谷川岳・一ノ倉沢をバックに

る。  
ここからは支部毎に班編成し隊列を組み旧国道を歩く。かつて主要国道であった石垣等の名残が見られる中を進んで行く。

主催者側が、背中に心房細動機器を背負い、電動アシスト自転車に巡回するモバイルAED隊を編成していたことは、リスク管理として感心した。

一ノ倉沢出合にて休憩し、大岩壁を見上げ、往路を引き返した。天候に恵まれ、心身の保養になったようだ。

インフォメーションセンターへ戻ると上州御用登利平の鳥めし弁当(竹)が振る舞われ、膝を並べ思い出話に花を咲かせ昼食をとる。昼食後は流れ解散となり送迎バスで帰路に向かった。

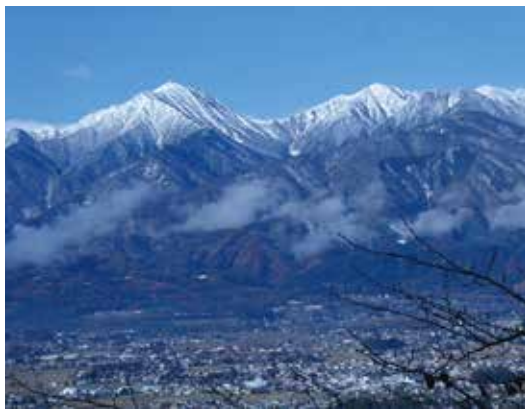
### 第10回中部ブロック 4支部交流会に参加して

井口 礼子

11月18日・19日、長野県安曇野市「ヴィレッジ安曇野」において、2019年以降、コロナで延期されていた4支部交流会が信濃支部主催で開催されました。総勢51名の参加。越後支部からは後藤支部長以下6名の参加でした。

18日、受付後の空いた時間に、隣接する「田淵行雄記念館」を見学し、当時使用していた貴重なカメラや山岳登攀の品々を見る事が出来ました。

15時からの記念講演の最初は、田淵行雄と親交のあった古幡開太郎氏(信濃支部会員)による「安曇野のナチュラリスト 田淵行雄―私が出会った偉大な博物学者―」と題しての講演があり、次に田淵行雄記念



雪をまとった北アルプスの山々

館で11年勤務された財津達弥氏(信濃支部会員)による「ナチュラリスト・田淵行雄の光跡」と題しての講演がありました。子供の頃から昆虫に興味を示し、それが蝶や蜂だった事。またそれらを本物の蝶や蜂が息づいているかのように描写し、繊細な色彩で絵にしたため、描かれている事。まとめて本として残り、出版に意欲があった事。「ソフレックス」のカメラはご自身で修理し、工夫を重ねて永い間愛用されていた事等々を知り、写真家だけではなかった田淵行雄を知る事が出来た貴重な講演でした。夕食、懇親会、二次会と盛り上り、就寝としました。

19日は紺碧の空の下、「光城山911.7m(長峰山933.4m)」周回の記念登山が開催されました。48名の参加です。雪をまとった蝶ヶ岳・常念岳・燕岳・鹿島槍ヶ岳・白馬岳を見ながらの楽しい登山でした。ご褒美に常念岳の鞍部には槍ヶ岳の穂先も顔を出してくれました。光城山山頂には古峯神社が祀られ、長峰山山頂にはハングラ

イダーのスタート台もあり、家族連れの方が多くありました。下山は緩やかな道もあり、安曇野の11月の山を堪能する事が出来ました。

ヴィレッジ安曇野到着後は昼食が用意されており、美味しい「カツカレー」を頂きました。来年度担当の北原山梨支部長よりお話があり、その後、閉会の挨拶、13時半過ぎ解散となり、帰路に着きました。

信濃支部の皆様には計画から実行まで、本当にお世話になりました。お礼申し上げます。

### 自然保護全国集会参加報告

春日 良樹

○期日：10月21日～22日(場所：東京都八王子市高尾山町)

○基調講演：「人と森のかかわり」  
森づくりフォーラム代表理事 内山 節氏

○支部報告：本部他全国14支部の取組発表

○フィールドスタディ：高尾の森づくりの  
会植林地(国有林・都育林)、ベース小屋

【1日目】各支部の発表では、大雪山高山植物盗掘防止パトロール・美瑛富士避難小屋トイレブース点検と清掃(北海道支部)、三ツ峠アツモリソウ保護活動・御岳山レンジショウマ観察会(東京多摩支部)、国定公園平尾台の帰化植物セイタカアワダチソウの駆除と絶滅危惧種の保護活動(北九州支部)、宮城県の山地及び丘陵における風力発電事業の概要と景観・環境破壊に対する意見書の作成(宮城支部)など様々な報告があった。

当支部からは、弥彦山フランスギク駆



活動ベース小屋

除・清掃登山、深沢小学校登山支援について発表。いずれの報告も、当会における自然保護活動を考える上で示唆に富むものであった。

【2日目】日本山岳会・高尾の森づくりの会では、50年間の長期計画を基に75000本を植樹し、樹齢100年の巨樹で構成される「多様で豊かな森林」の復元を目指す。総面積は178ha、現在までに広葉樹の苗木18000本を植樹。普及宣伝・啓発・事業・専門班が組織され、月1回の定



鹿除けネット装着苗

例作業を核に、父子キャンプ、森林学習、動植物調査研究、伐採木活用等のイベントを開催。年間延べ2000人が参加する、半世紀先の高尾山の自然を見据えた壮大な取組の現場を歩く。目標の明確化、持続可能性、普及宣伝(広報)、次世代育成など、当支部の取組に生かせる知見に満ちたフィールドスタディであった。林地や作業道は、極めて急峻で岩だらけ。「こりゃあ、登山者でないといけない仕事だなあ」と思わされた1日…。

## 初雪山

滝沢 信子

名前に憧れ、初雪山の募集に直ぐ応募しました。

その日が近づくにつれ初雪山を調べてみた。富山県東端に位置し、山頂が細長く見える標高1610mの山だ。コースタイムは、10時間30分大変な山だと気づかされ気おくれする。



山頂にて

鞍部を下りしばらく行くと剣岳が後ろに見られる。点在する池塘の登山道を進み、かなり下って鞍部に着く。ここからは、最後の登りになる。ここまで四時間半かなりかなり疲労していた。この先は、山頂を目指して頑張るだけ。11時40分全員山頂に到着した。バンザイ!

山頂は広く360度パノラマ、梅海新道の犬ヶ岳、白馬岳、富山湾までが望め、素晴らしい景観で長丁場の疲れが一気に癒さ



山頂からの眺め

その日の天候と体調を祈るのみ。前日の10月7日は、鶴本さんの岳修山荘に集合し、一晩お世話になった。

8日は、4時に起床し出発、下山後の宿、親不知観光ホテルに車を駐車する。2台のタクシーに分乗し登山口に移動する。六時過ぎに越道峠の石碑前から登山開始、杉林の登山道を歩き、途中で朝食をとる。しばらく進むと右手に初冠雪の朝日岳を望めた。更にすすむとブナ林の平坦部に出る。ここからは、アップダウンが続き、帰路が案じられる。

## 大力山を歩いて

小野 礼子

れる。十人で広い山頂を独占、昼食をそこに摂り下山する。

曇り空の中、往復16km、10時間半の歩きは、久々に疲れました。段取りして頂いた渡辺様をはじめ参加されたメンバーのお陰で山頂に立つ事が出来ました。ありがとうございました。

大力山、私にとって二回目になります。が、良くも悪くも印象に残っている山です。最初は4、5年前、山友と二人でお寺の脇から登ろうとしていたと、若いお兄さんがタクシーで来て、登る準備を始めました。東京に住んでいる男性で、彼方では、魚沼アルプスと呼ばれており、人気なのだとか。しかも一日かからない時間で一周できるというではないですか。それでは行ってみようという意見が合い、登り始めました。



大力山山頂にて

11月9日秋晴れの中、渡辺茂リーダーによる井戸小屋山登山に公募参加者14名。紅葉の木々の中を楽しいおしゃべり、鈴の音、火薬弾とにぎやかに9時10分登山開始です。滑りやすい斜面はロープを張ってもらい「ゆっくりね、ロープは胸に引いて」と、声掛けていただきながら12時山頂に到着。越後の山々を堪能しながらのランチタイム。玉木大二朗リーダー、新島二郎さんと御前ヶ遊窟を目指すチャレンジャー4名は装備を確認して出発、ロープで確保してもらいながら岩稜の細い尾根をアップダウンで進み御前ヶ遊窟山頂に到着。断崖、山々連なる絶景をまたまた堪能してきました。

## 「平口トレッキング・井戸小屋山」

金子 美千代

しかし、半分を過ぎた辺りで山友が足がつるハプニング。こんな場合、初めての山となると先の時間が読めなくて、とても不安でした。日の長い時期だったので、何事も無なかったかの如く帰宅しましたが、忘れられない思い出となりました。

今回は大力山山頂より板木城址の方へ、そして西福寺に下るという事で、ルンルン気分で歩きました。ところが板木城址付近は空堀が多く、しかも深い。そんなことでルンルン気分はすぐに吹っ飛びました。さらに堀之内の御嶽山にも登りましたが、どちらの山も天気にさえ恵まれれば、越後三山から隣の集落まで見えるんですね。

帰宅後、当日の歩数を確認したら、何と2万歩に達しておりました。大力山、500m程の山ではありますが、いやいや、なかなか面白い山でありました。

登攀時に「後悔していませんか？」と優しく声掛けをいただき緊張感もほぐれ無事16時15分下山出来ました。感謝。低山でも侮れないお山で支部会員の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。



ロープを付けて記念撮影 (御前ヶ遊窟山頂)



井戸小屋山山頂にて

### 越後アルパインスキー 同好会結成総会

新保 雅稔

去る12月16日～17日に妙高熱温泉の燕ハイランドロッジにおいて標記総会が開催され会員10名の参加があった。

総会とのことで緩い気持ちであったが、廣井博行会長のあいさつの後、早速後藤正弘支部長による雪崩リスクの軽減について講義が始まった。雪崩の基礎知識からセルフレスキューに至るまで豊富な画像やイラストを織り込んだもので、雪崩の恐ろしさについて改めて認識させられた。支部長の経験に基づく具体的な話が盛り込まれ、一般論としてはわかっているつもりでも、細部にはなるほどと思わせる事柄も多くあり大変参考になった。

自分の行動はどうであろうかと振り返ってみるが、ドロップポイントでは現在の確認や積雪層の観察もほどほどにフカフカな雪斜面を荒らされないように我先にと滑り込んでいたのが現状で、わかつてはいるが実行していないことが多々あり反省させられる場面もあった。

また、妙高火打周辺の滑走ルート紹介では、季節や積雪状況による変化もよくわかるように編集され



て臨場感を味わうことができた。引き続き玉木大二郎さんより実際の救助活動のお話があり、雪崩の威力のすさまじさに驚くとともに、救助救援に向かう方々の並々ならぬご苦労がよくわかる内容であり、遭難事故は絶対に対処してはならないと身が引き締まる思いであった。

みっちり学習した後、暗くなってようやく懇親会が始まった。スキーを嗜む皆さんであるが故に、会話も滑らかな人達ばかりで、それぞれの経験談や考え方の話題に休む間もなく、ともすれば雪崩のごとく押し寄せる大笑いに埋もれそうになる楽しい時間が遅くまで続いた。

翌17日はちらちらと降雪であったが、杉ノ原スキー場は積雪がなく、予定した杉ノ原池の平までの要林道ツーリングはやむなく中止となった。山田和人さんから笹谷山荘を現地見学させていただき、3月3日の三田原ツアーの際は使用しているよとありがたいお言葉。

次回1月27日の東谷山での再会を約束し、お昼前に解散となった。

### スノートレッキング米山600m

君 清

日時…2023年12月24日(日)

参加者…9名(C.L廣井、S.L渡辺)

ルート…大平コース往復

新潟市内は21日～22日の2日間40cmの積雪、23日は雪もやんだが道路状況がよく分からない。高速道路が不通なら中止との連絡あり。当日は曇り空で道路不通の連絡もなく山行実施。



スノートレッキングを楽しむ

6時30分に新潟発一路大平登山口へ向かう。集落への道はきれいに除雪されており、何等問題もなく大平登山口駐車場に着。既に他のメンバー達は到着し、出発すべくカンジキを装着している。我々も準備し8時に出発となった。



米山山頂が見える

2日間の新雪のラッセルはなかなかキツイ、更に雪の重みで木々が垂れ下がりに行く手を塞ぐ。迂回したり、跨いだり、こぐつたりである。斜度のある面は腕とストックで雪を掻き寄せ、膝とカンジキで雪を踏み固めるがカンジキはブルブルと埋もれてしまい、まさに蟻地獄。二番手からカンジキを支えてもらい、尻を持ち上げてもらいようように這い上がる。歩みは遅々として進まない。

11時タイムアウト。711m峰先の鞍部手前までとし711m峰に戻り昼食をとる。ここ711m峰からは眼下に日本海、直江津港さらには妙高、北アルプス、樹氷の向こうには米山山頂と小屋が青空の中に浮き上がる。

景色を堪能後一気に下山。駐車場12時15分着。途中敗退であったが良き仲間と天候に恵まれ楽しく充実の山行でした。



参加メンバー

### 年頭の弥彦山山行

越後スノートレック  
キング同好会  
松井 潤次

1月8日(成人の日)前日からの降雪の中、国上道の駅に7名集合。裏参道登山口の駐車場に向かう。除雪車が出動し除雪中の道路を登り、駐車場入り口の路肩に駐車。楡井リーダーの挨拶の後、8時30分出発。辰年を迎えて先ずは龍神の滝へ向かう。雪も止み、凜とした空気の中、水が流れ落ちていている。脇の水神様にて安全登山を祈願する。

目印を頼りに、枝を分けながら、登山道に戻る。膝下程度の新雪であるが、先行者のトレースがあつて、ラッセルを強いられることはないが、トップを交代しながら登る。スカイラインを横切つて、順調に高度を稼ぐと能登見平だ。山頂の電波塔が眼に入る。海側からの風は刺すように冷たいが雲の切れ間に青空も覗き、快適だ。積雪も増し冬山気分を満喫する。10時50分頂上



参加メンバー



山頂を目指して進む

御神廟に到着し、リーダーの拍手に合わせて参拝する。表参道からの登山者も続々と登ってくる。

昼食は頂上直下のスペースを踏み固めて、冬山装備のアイデアなどを話題にしていた。下山は往路を快適なペースで一気になり、12時20分に登山口に到着。行動時間は4時間であった。

県内は大雪警報であったが、弥彦山は新雪で視界も良く、恵まれた条件でスノートレッキングができた。来年も年頭は弥彦山で実施したい。

### 古道調査

### 九才坂峠を歩く

遠藤 家之進正和

廃村となった土井集落の、地域おこしで設置された弁財天の脇に駐車し、登山口に向かう。峠への道は張り出した尾根を乗越してついている。杉林を抜け、山腹を巻き、

杉林を過ぎると東小出川の支流に出る。ここから道は沢沿いとなり迷うことはない。しかし、増水期の山行は要注意となる。沢から高みに離れると朽ちた標識が横たわっているが「落石注意」と読み取れる。土井集落から九才坂峠まで約1時間30分という行程だが、沢筋の道を40分ほど進むと、左に目指す岳に突き上げる沢に出る。九才坂峠への登山道は、張り出した尾根につけられており、登りへの休み処である。峠への道はつづら折りで、朽ちた階段の杭も残っており、良く整備されている。傍らのミツバオウレンを眺めながら登ると、九才坂峠に到着する。

峠はブナ林の中にあり、展望はきかない。杉の大木は枝を付けた下部で折れており、その大木に「日本山岳会越後支部20周年記念新潟県境全縦走踏査」の標識が、調査の時取り付けたのが残っていた。80周年記念行事として進めている古道調査の九才坂峠に、60年を経た今も現存していることに感



激を覚えざるを得ない。

小休止の後、目指岳へ向かう。片道約30分の行程である。ブナ林の平坦道を中間地点で下り、一気の急登となる。小枝に掴まりながら登りきると、秋晴れの空のもと会越県境の展望が開ける目指岳(650・3m)に到着。北には土埋山の奥に兎ノ倉山から飯豊連峰。振り返れば大倉山。眼下には竜ヶ岳が望め、手前に西会津野沢の家並みが遠望できる。展望を楽しんだ後一気に九才坂峠まで戻り、昼食とする。

水沢への道は竜ヶ岳へ伸びる尾根について有り、若いブナの幹を眺め、いかにも峠道という雰囲気味わえるところである。下つてすぐに展望が開ける処に出る。雑木林を下り、尾根を乗越す手前で、先ほど登った目指岳が見え隠れする。尾根を乗越すと、落ち葉を踏み付ける音だけを聞きながらブナ林を下る。右に堰堤が見えると水沢登山口に着く。九才坂峠から45分で一気に下ってしまった。

近くに弘法岩屋があるので足を伸ばす。10分足らずで岩をくりぬいた中に造られたお堂に着く。巡錫中の弘法大師がこの岩窟に籠り、大蛇の悪霊を鎮めたという。大師は去るに当たり自らの姿を刻み、岩窟に安置したという安座地域の八蛇沼伝説である。

### 越後と江戸を結ぶ歴史の峠 清水峠(1,448m)

松井 潤次

新潟県南魚沼市清水から群馬県水上町土合へ至る上越国境に位置する清水峠は標高1000m以上で県内では森林限界を越え

る稀な峠である。越後と江戸を最短で結ぶ峠道、清水越えは直越(すぐこえ)、直路(すくじ)とも呼ばれていた。古くは上杉謙信の関東出征の軍用路として、また交易の道として幾度も切り開かれた国境越えの道であった。清水越えの長い歴史の中で最も大規模に開削された工事は明治18年に難工事の末に開通した清水街道である。国道8号線として期待されたが、相次ぐ雪害に1年足らずで通行休止となってしまった。その後、兎平経由で清水街道に合流する井坪坂ルートが個人により開通し利用されていたが、信越線の開通後は衰退していった。昭和に国道291号線に認定されたが、清水越えの通行不能区間は点線国道として幻の区間である。現在、清水峠へは十五里尾根(謙信尾根)ルートと井坪坂ルートの二本が登山道として歩くことができる。

9月23日、国道291号線を清水集落の先にある車止めゲートに集合し出発。曇天の中、登川右岸の舗装路を歩きだす。1時間ほどで追分に着く。左は井坪坂、右は十五里尾根への分岐である。前方に十五里尾根の鉄塔が遠望でき、ここより清水峠を周回する。右に進むと登川を橋で渡り、丸ノ沢出合より十五里尾根に取り付く。大源太山と七ツ小屋山の鞍部に突き上げる丸ノ沢は最も古い峠道といわれるが、大きな砂防堰堤が二基建設され痕跡は見られない。要所にロープが付けられた急登から、つづら折りのブナ林を1時間ほどで最初の鉄塔である。尾根を登るが雨とガスで全く展望が効かない。登川を挟んで対岸の尾根に刻まれた清水街道を視認することができなかった。5番目の鉄塔を過ぎ、峠とほぼ同じ標高になると、峠へのトラバースとなる。足

元が不安定で通過に時間を要した。国境稜線には三角屋根のJ.R送電線監視小屋が建っており、清水峠に到着する。雨も止まず、展望も効かず白崩避難小屋にて昼食とし、早々に下山開始。勾配の緩い広い旧国道を下ると標高1400m付近で井坪坂への分岐がある。旧国道は敷化していて先は見えず、痕跡を確認できなかった。井坪坂への下りは足元がよく、道幅もあり歩きやすい。途中、水量の増した登川本谷を渡渉し、滝を架けたナル水沢を通過すれば兎平だ。茶屋が三軒あったというが痕跡はない。槍倉沢に下りると堰堤を渡り、舗装路を歩いて追分を過ぎゲートに到着した。



### 事務局からのお知らせ

●支部会員動向(2023年9月~12月)

- 1 新入会友
- 2 退会会員
- 東原 進(7514、支部を退部。会員は継続)
- 3 物故会員
- 本田 文雄(5257)
- 4 支部会員数(2023年12月末現在)
- 支部会員(準会員含む) 154名
- 支部会友9名

### 編集後記

今年年明け早々に大地震があり、震源地の能登地方だけでなく、新潟県内でも地震やそれに伴う津波での被害が多く発生しました。亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに被災された皆様にお見舞い申し上げます。

大地震の翌日には大きな被害となる航空機事故がありました。旅客機側は怪我人は出たものの乗客乗員379人全員が無事脱出しました。飛行機には90秒以内に全員が脱出できるように設計することが求められていることですが、山で地震や噴火にあつた際にいかに行動すべきか日頃から準備できているだろうか、ビバーク用の装備も今のままで大丈夫か、災害に伴う情報は入手できるのだろうかなど、道迷いや体調不良・怪我だけでなく、様々なアクシデントを想定して考える機会となりました。

楽しい山を語り合うだけでなく、時にはもしもの時についても話題にし、常に安全登山を心掛けたいものです。(諏訪恵一)